

Excelの基本(Word&Excel2010 参照)

Chapter8 数式と関数のテクニック

II. 関数を活用する・・・P128～P136

3. 目的にあった関数を探す(関数の検索)・・・P129

テキスト参照

5. 数値を四捨五入する(ROUND 関数)・・・P131

テキスト参照

「実習」(上記の2項を一緒に説明)

関数の探し方を実習

本例は、注文数を100個単位で実施する場合の例。

①関数を入力するセルを指定

②「数式」タブを選択

③「関数ライブラリー」の項の「関数の挿入」をクリックする。

⑤下図のウィンドウが開いたら、「四捨五入」とキーワードを入力し、「検索開始」をクリックする。

⑥「ROUND」を選択し、「OK」をクリックする。

ここからはテキストP131参照

品名	不足数	注文数
付箋(白)	1,564	
付箋(黄)	876	

★注文は100個単位で！

関数の検索(S): 四捨五入 検索開始(G)

関数の分類(C): 候補

関数名(N):

- ROUND
- FIXED
- YEN
- ROUNDDOWN
- DB
- ROUNDUP

ROUND(数値,桁数)
数値を指定した桁数に四捨五入した値を返します。

この関数のヘルプ OK キャンセル

(関数の一覧表は2019年度21回の資料を参照のこと。)

⑦「数値」の欄に四捨五入の対象となる数値の入ったセルを指定する。
本例ではセル「B4」をクリックする。

⑧数値欄に「B4」とセル番号が表示される。

⑨「桁数」欄に結果末尾の表示桁数を入力する。

Excel screenshot showing the ROUND function dialog box. The formula bar shows $=\text{ROUND}()$. The dialog box has '数値' (Number) and '桁数' (Digits) fields. The formula result is $=$.

100の位までで丸めるため、下記の表を参照し、「-2」と入力する。

Excel screenshot showing the ROUND function dialog box. The formula bar shows $=\text{ROUND}(B4,-2)$. The dialog box shows '数値' (Number) as B4 and '桁数' (Digits) as -2. The formula result is $= 1,600$.

	1000位	100位	10位	1位	小数点第1位	小数点第2位
	1	2	3	4.	5	6
桁数指定	-3	-2	-1	0	1	2

4. 合計を簡単に求める(SUM 関数)・・・P130

テキスト参照

6. 種類別に合計(SUMIF 関数)・・・P132

テキスト参照

「実習」

C16	=SUMIF(B4:B13,"東京",C4:C14)			
	A	B	C	D
1	売上リスト			
2				
3	日付	店舗	個数	金額
4	11月2日	東京	4	32,000
5	11月3日	東京	4	12,800
6	11月4日	大阪	5	10,200
7	11月5日	東京	15	46,000
8	11月6日	大阪	14	15,300
9	11月7日	名古屋	11	23,000
10	11月8日	大阪	15	12,900
11	11月9日	名古屋	8	16,300
12	11月10日	大阪	9	15,000
13	11月11日	名古屋	11	25,600
14	合計		96	208,100
15				
16	東京の個数		23	

(P128 の項、資料第20回の2項の方法利用し、一部方法を変更)

P128 の例では

=SUMIF(B4:B13,"東京",C4:C13)

(検索範囲、検索条件、合計範囲)の様に直接条件を記入している。

・P132 では検索条件を予めセルに記入しておき、それを参照する方式を学ぶ。

C15				
	A	B	C	D
1	売上リスト			
2				
3	日付	店舗	個数	金額
4	11月2日	東京	4	32,000
5	11月3日	東京	4	12,800
6	11月4日	大阪	5	10,200
7	11月5日	東京	15	46,000
8	11月6日	大阪	14	15,300
9	11月7日	名古屋	11	23,000
10	11月8日	大阪	15	12,900
11	11月9日	名古屋	8	16,300
12	11月10日	大阪	9	15,000
13	11月11日	名古屋	11	25,600
14				
15	合計	東京		

①エクセルのサンプル一覧から

「P132_種類別に合計するには.xlsx」のファイルを開く

②前述の表と一部異なり、左図の様に B15 のセルに東京と記載されている。

③C15 のセルに東京の店舗のみの売上個数合計を算出する。

テキスト P132 の1～5の手順で計算して見よう。

SUMIF	=SUMIF(B4:B13,B15,C4:C13)			
	A	B	C	D
1	売上リスト			
2				
3	日付	店舗	個数	金額
4	11月2日	東京	4	32,000
5	11月3日	東京	4	12,800
6	11月4日	大阪	5	10,200
7	11月5日	東京	15	46,000
8	11月6日	大阪	14	15,300
9	11月7日	名古屋	11	23,000
10	11月8日	大阪	15	12,900
11	11月9日	名古屋	8	16,300
12	11月10日	大阪	9	15,000
13	11月11日	名古屋	11	25,600
14				
15	合計	東京	=SUMIF(B4	

直接“東京”と記入せず、セル B15 を参照する形式となっている。

SUMIFS 関数(条件が2つ以上を満たす場合の合計を行う)

(例)前ページの売上表から、東京店舗の売上の内、個数5個以上の日の売上金額を集計する。

	A	B	C	D
1	売上リスト			
2				
3	日付	店舗	個数	金額
4	11月2日	東京	4	32,000
5	11月3日	東京	4	12,800
6	11月4日	大阪	5	10,200
7	11月5日	東京	15	46,000
8	11月6日	大阪	14	15,300
9	11月7日	名古屋	11	23,000
10	11月8日	大阪	15	12,900
11	11月9日	名古屋	8	16,300
12	11月10日	大阪	9	15,000
13	11月11日	名古屋	11	25,600
14				
15	合計	東京	>=5	

- ①セルB15に、条件1の「東京」と記載する。
- ②セルC15に、5個以上を示す、「>=5」と記載する。
5より大きい条件の場合は、「>5」
5より小さい条件の場合は、「<5」
いずれも算術記号は半角文字、以上以下の場合の=記号は不等号の後ろに記述する。
- ③計算式を入力するセルD15を選択する。

④「数式」タブ、「関数の挿入」から下図のウィンドウで「すべて表示」カラ下部から「SUMIFS」を選択する。

The screenshot shows the Excel interface with the 'Formulas' ribbon selected. The 'Insert Function' button is highlighted. The 'Insert Function' dialog box is open, showing a search for functions. The 'SUMIFS' function is selected in the list. The background shows the same sales data table as in the previous image, with cell D15 selected.

⑤ 「OK」をクリックすると次ページの「関数の引数」設定のウィンドウが開く

⑥合計対象範囲にカーソルを移動、クリックする。

⑦合計対象範囲セルD4～D13を選択(ドラッグする)と下図の様に範囲欄にセル位置が入力される。

1	売上リスト			
2	日付	店舗	個数	金額
4	11月2日	東京	4	32,000
5	11月3日	東京	4	12,800
6	11月4日	大阪	5	10,200
7	11月5日	東京	15	46,000
8	11月6日	大阪	14	15,300
9	11月7日	名古屋	11	23,000
10	11月8日	大阪	15	12,900
11	11月9日	名古屋	8	16,300
12	11月10日	大阪	9	15,000
13	11月11日	名古屋	11	25,600
15	合計	東京	>=5	=SUMIFS(D4:D13)

関数の引数

SUMIFS

合計対象範囲 D4:D13 = {32000;12800;10200;46000;15...}

条件範囲1 = 参照

特定の条件に一致する数値の合計を求めます。

合計対象範囲: には合計対象の実際のセルを指定します。

数式の結果 =

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

⑧次に条件範囲1の欄をクリックし、第1の条件を選択する範囲をドラッグする。

⑨次に条件1の欄をクリックし、検索する条件が記載されたセルを選択する。

1	売上リスト			
2	日付	店舗	個数	金額
4	11月2日	東京	4	32,000
5	11月3日	東京	4	12,800
6	11月4日	大阪	5	10,200
7	11月5日	東京	15	46,000
8	11月6日	大阪	14	15,300
9	11月7日	名古屋	11	23,000
10	11月8日	大阪	15	12,900
11	11月9日	名古屋	8	16,300
12	11月10日	大阪	9	15,000
13	11月11日	名古屋	11	25,600
15	合計	東京	>=5	=SUMIFS(D4:D13,B4:B13,B15)

関数の引数

SUMIFS

合計対象範囲 D4:D13 = {32000;12800;10200;46000;15...}

条件範囲1 B4:B13 = {"東京";"東京";"大阪";"東京";"大阪"}

条件1 B15 = "東京"

条件範囲2 = 参照

特定の条件に一致する数値の合計を求めます。

条件1: には、計算の対象となるセルを定義する条件を数値、式、または文字列で指定します。

数式の結果 = 90,800

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

これで条件1(東京店舗のデータを選択)を満たす部分が設定できた。

⑩次に条件範囲2の欄をクリックし、第2の条件を選択する範囲をドラッグする。

⑪次に条件2の欄をクリックし、検索する条件が記載されたセルを選択する。

日付	店舗	個数	金額
11月2日	東京	4	32,000
11月3日	東京	4	12,800
11月4日	大阪	5	10,200
11月5日	東京	15	46,000
11月6日	大阪	14	15,300
11月7日	名古屋	11	23,000
11月8日	大阪	15	12,900
11月9日	名古屋	8	16,300
11月10日	大阪	9	15,000
11月11日	名古屋	11	25,600

⑫条件1、条件2の引数が設定できたので、「OK」をクリックする。

日付	店舗	個数	金額
11月2日	東京	4	32,000
11月3日	東京	4	12,800
11月4日	大阪	5	10,200
11月5日	東京	15	46,000
11月6日	大阪	14	15,300
11月7日	名古屋	11	23,000
11月8日	大阪	15	12,900
11月9日	名古屋	8	16,300
11月10日	大阪	9	15,000
11月11日	名古屋	11	25,600

⑬左図のように、セルD15に計算値が表示される。

全体から東京店舗の一日売上個数5個以上の日の売上合計金額が表示された。

7. 条件に合うデータの件数を数える (COUNTIF 関数) …P133

テキスト参照

空白のセルを計数する場合

COUNTBLANK 関数を使うと便利 …P133の下部「POINT！」欄を参照